



話のネタになるような知っているようで知らない普段何気ないものを集めてみました！

1) 5月の異名「皐月」の由来

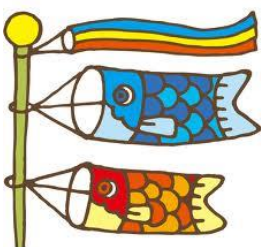
「皐月」は耕作を意味する古語「さ」から、稲作の月として「さつき」になった。早苗を植える月「早苗月」が略され「さつき」になったとも。ちなみに、「皐」の字は「神に捧げる稲」の意味があるため「皐月」の字があてられたと言われる。(出典：語源由来事典)

2) 5月1日がなぜメーデーなの？

メーデーとは、「労働者の祭典」。毎年5月1日に全世界の労働者が統一して団結の力と国際連帯を示す統一行動日です。アメリカの労働者たちが全国でストライキを起こし、労働時間の短縮「8時間労働制」を勝ち取ったことを記念して始まったものです。(出典：島根県職員連合労働組合)



3) 端午の節句になんで鯉のぼり立てるの？



もともとは、将軍に男の子が生まれると家紋のついた旗やのぼりを立てて祝う風習がありました。やがてこれが武家に広がり、その後、江戸庶民の間で鯉の滝登りで立身出世のシンボルとなった鯉を幟にするアイデアが生まれ、鯉のぼりが揚げられるようになりました。当時は乳幼児の死亡率が高かったため、健やかな成長を祈る気持ちの表れでもあったのです。

(出典：All About)

4) 緑茶と煎茶と玉露は何がちがう？

「夏も近づくと八十八夜♪」の歌いだしで知られる茶摘み。
八十八夜とは、立春から数えて88日目の、5月1日～3日頃を指します。
お茶の種類もたくさんありますが、その違いをご存知でしょうか？

緑茶とは摘み取った直後に発酵を止める不発酵茶つまり日本茶全般を指します。
なので、煎茶も玉露も、日本茶全般の総称を緑茶といいます。



煎茶と玉露は何が違うのか？
どちらもお茶の木は同じです。その違いは栽培方法にあります。

煎茶・・・新芽が出てから摘み取りまでずっと日光に当てて育てます。
→光合成が行われ、カテキン(渋み成分)が増える
＜程よい渋みと爽やかな香り、すっきりとした味わいになる。＞

玉露・・・玉露は早ければ新芽が出始めたら、もしくは茶摘の約3週間前から
日光を遮って育てる。
遮光率は最初70%前後から始まり、茶摘前には90%以上の遮光率で育てる。
→光合成がされず、カテキンを抑え、テアニン(旨味成分)が増える。
＜甘みとコクのある味わい。遮光栽培独特の覆い香と言われる香りがある。＞



5) 一匹の蜂が一生に集められる蜜の量はどれくらい？

働き蜂の寿命は30日～40日くらいで蜜を集める期間は2週間くらいです。
一度の採蜜量は多くても0.5g程度なので、20日間集めたとすると10gになります。
ただし、集めたばかりの蜜は半分以上が水分の為、巣の中で濃縮され、実際に
蜂蜜として完成する量は4g～6g程度。
一匹の蜂が一生に集められる蜜の量は小さめのスプーン一杯分です。
300gの蜂蜜には60匹くらいの蜂の一生が詰まっているという事ですね。

ちなみに・・・

その間に飛ぶ距離は約1万km。東京-サンフランシスコまで
太平洋を横断するほどの距離を飛ぶそうです。

(出典：樋上養蜂場)

